

発信日：2007年12月3日

『Russell/Nomura 日本株インデックス』年次銘柄入れ替え

Russell/Nomura Total Market インデックスに新たに 24 銘柄が組み入れ

ラッセル・インベストメントと野村証券は、この度、Russell/Nomura 日本株インデックス・シリーズの定期銘柄入れ替えを行いました。今回の入れ替えで、浮動株修正時価総額上位 98% の銘柄で構成される Russell/Nomura Total Market インデックスに、24 銘柄が初めて組み入れられました。構成銘柄の詳細は、野村証券金融工学研究センターのホームページ (<http://qr.nomura.co.jp/jp/index.html>) をご覧ください。

定期銘柄入れ替えについて、野村証券執行役、金融工学研究センター長の加藤康之は、「Russell/Nomura 日本株インデックス・シリーズでは、取引コスト抑制に十分な配慮をしつつ、市場の代表性を維持するために、全構成銘柄の見直しを年 1 回行っています。市場の実態を株価指数に的確に反映させるには定期的な見直しが不可欠だからです。定期銘柄入れ替えに際しては、インデックスの管理プロセスの客観性を可能な限り維持するよう配慮しています」と述べています。

今回の入れ替えにより、Russell/Nomura Total Market インデックスは全体で 166 銘柄減って 1,500 銘柄となりました。221 銘柄が除外、55 銘柄が組み入れられる中で、24 銘柄が初めての組み入れとなりました。一方、インデックス全体の時価総額は 358 兆円から 362 兆円に増加しました (2007 年 10 月 15 日時点。時価総額は浮動株調整済み)。

ラッセル・インデックス担当ストラテジック・ディレクターのケリー・ホートンは、「Russell/Nomura 日本株インデックスは、日本の株式市場を広く網羅し、精緻な浮動株修正と透明性の高いルールによって構成銘柄が決定されています。そのため、インデックス構成銘柄の入れ替えにより、日本株式市場においてどのような銘柄や業種が投資可能な市場規模を拡大しているのかを客観的に捉えることができる、投資家のための公平なインデックスです」と述べています。

例えば、サイズ別のサブインデックスである Russell/Nomura Large Cap Index の構成銘柄は昨年度に比べて 51 銘柄少ない 300 銘柄となりました。Russell/Nomura Large Cap Index は Russell/Nomura 日本株インデックスに構成される銘柄群の時価総額の上位 85% と定義されており、昨年度よりも少ない銘柄数となったことは時価総額上位銘柄の堅調ぶりを反映していると言えます。構成銘柄リストを通じて、大型株の株価パフォーマンスが相対的に良いことや、日本企業の相次ぐ統合や合併により、日本株式の時価総額上位銘柄の時価総額比率が大きくなってきていることがわかります。

新規に採用された 24 銘柄を業種別に見ると、「サービス業」が 6 銘柄と最も多く、「卸売業」が 3 銘柄、「機械」が 3 銘柄、「電気機器」が 3 銘柄、「輸送用機器」が 3 銘柄と続いています。時価総額構成比で見ると、「サービス業」の比率が最も大きく、「輸送用機器」、「石油・石炭製品」と続いています。新規に組み入れられる銘柄の業種構成も、市場の実勢を反映しているものと考えられます。

Russell/Nomura Prime インデックスの新規採用は 26 銘柄

Russell/Nomura Prime インデックスはRussell/Nomura 日本株インデックスのサブインデックスです。同インデックスは機関投資家のパッシブ運用のベンチマークとして開発され、Russell/Nomura 日本株インデックスの時価総額上位 1000 銘柄で構成されます。今回の入れ替えで、同インデックスの時価総額は 348 兆円から 353 兆円に増加しています。新たに上位 1000 銘柄となった銘柄は 26 銘柄となります(2007 年 10 月 15 日時点。時価総額は浮動株調整済み)。

これら 26 銘柄のうち、「サービス業」が 6 銘柄と最も多く、「卸売業」が 3 銘柄、「機械」が 3 銘柄、「電気機器」が 3 銘柄、「輸送用機器」が 3 銘柄と続いています。時価総額構成比で見ると、「サービス業」の比率が最も大きく、「輸送用機器」、「石油・石炭製品」、「海運業」と続いています。

ラッセルでインデックス担当執行役を務める木口愛友は、「Russell/Nomura Prime インデックスに採用されるということは、その銘柄がわが国の株式市場で機関投資家の主要な投資対象となるのに十分な市場規模・流動性を備えていることを意味します。時価総額で上位 1000 銘柄に入ったこれら 26 銘柄は、新たに機関投資家のポートフォリオの中核を担うことになったとも言えるでしょう」と述べています。

Russell/Nomura 日本株インデックスについて

1995 年、野村証券とラッセル・インベストメントは、資産運用の運用実績を測定するツールとして「Russell/Nomura 日本株インデックス」を共同開発しました。当インデックスは、浮動株修正時価総額を基準に日本の市場に上場されている普通株式で構成されています。浮動株修正時価総額上位 98%の銘柄で構成される Russell/Nomura Total Market インデックスを中心に、そのサブインデックスを含むシリーズとなっています。

当インデックスでは、株式市場の変化を反映させるため、年一回 12 月第一営業日に構成銘柄の定期入れ替えを実施しています。構成銘柄は、10 月 15 日時点の浮動株修正時価総額によって順位付けされます。

定期銘柄入れ替え後、合併・買収やその他の事由によって当インデックスから銘柄が削除される場合においても、次回の定期銘柄入れ替えまで補充されることはありません。従って、各インデックスへの組み入れ銘柄数は、年中に変動します。臨時で追加が行われるのは、スピンオフおよび新規上場によって大幅に構成比が低下する場合にかぎります。

ラッセル・インベストメントについて

ラッセル・インベストメントは、今日世界40カ国以上において、年金、金融機関および個人投資家など様々な投資家の皆様を対象に総合的な資産運用ソリューションを提供しています。グローバルに行う運用会社調査をもとに、資産運用、オルタナティブ投資、確定拠出年金サービス、資産運用コンサルティング、売買執行管理、株式インデックスの開発など幅広く業務を行っています。現在当グループが提供するファンドの運用資産総額は約 27 兆円^{*}、また資産運用コンサルティング・サービスの対象資産総額は約 224 兆円^{**}となっています。グループの創立は 1936 年。米国ワシントン州タコマを本拠地とし、アムステルダム、オークランド、サンフランシスコ、シドニー、シンガポール、東京、トロント、ニューヨーク、パリ、香港、メルボルン、ヨハネスブルグ、ロンドンに主要拠点を擁しています。米国最大手の個人生命保険会社であるノースウェスタン・ミューチュアル・ライフ・インシュアランスの子会社です。

日本においては 1986 年に東京オフィスを開設。現在、ラッセル・インベストメント証券投信投資顧問株式会社を通じて各種サービスを提供しています。

詳しくは、www.russell.com/jpii をご覧ください。

(^{*} 2007 年 9 月末現在 ^{**} 2006 年 9 月末現在、グループ合算)

野村証券株式会社について

野村証券株式会社は、野村ホールディングス株式会社を持株会社とする金融サービスグループ「野村グループ」のコア業務である証券業務を担う中核会社です。国内で展開する本支店数は 160 (12/3 現在)。野村証券に関するより詳細な情報は <http://www.nomura.co.jp/> をご覧ください。なお、「野村グループ」に関する IR 情報やニュースリリースなどは、野村ホールディングスのサイト <http://www.nomura.com/jp/> にて掲載しております。

お問い合わせ先:

ラッセル・インベストメント

【米国窓口】

PR 担当: Steve Claiborne
TEL: US, 253-439-1858
E-mail: newsroom@russell.com

【日本窓口】

ラッセル・インベストメント証券投信投資顧問株式会社
マーケティング本部
TEL: 03-5411-3790
Email: Tokyo-RIJ@russell.com

野村証券株式会社 金融工学研究センター

インデックス・プロダクツ・グループ

TEL: 03-3274-0924

E-mail: idx_mgr@frc.nomura.co.jp